

貴重な歴史・文化的資料を捨てないで！能登町の歴史・文化遺産を後世に伝えよう！！

能登町文化財レスキュー^{ニュース}News

第15号 発行日：令和7年7月 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

本紙は町HPからも見ることができます https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20872



「文化財レスキュー」とは？？ 地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

文化財レスキュー展示×羽根万象作品展「描かれた女性たち」
令和7年7月8日（火）～10月12日（日）
能登町立美術館（羽根万象美術館）で開催中

文化財レスキュー資料を後世へ ～本格的整理が始動～

令和6年能登半島地震や奥能登豪雨を受けて、文化財レスキューが活発におこなわれています。しかしながら、レスキューされた資料の整理には、専門的知識や人員などが必要となります。

そこで、専門家や大学生の協力を得て、レスキューされた資料を整理し、将来に適切な形で継承される取り組みが始まりました。

具体的には、専門家等からの助言を受けながら、歴史・文化的資料（古文書など）の個々について調査カードを作成し、それをもとに目録化（リスト化）を実施します。さらに、写真撮影を並行しておこなうことで、視覚的な記録もおこないます。



古文書の整理作業（古文書の内容を読み取ってタイトルをつけて封筒に書き、封筒につめていく）



古文書の写真撮影とリスト化作業



文化財レスキュー保管場所の環境整備
（窓にカーテンを設置して直射日光を遮る）

珠洲の寺院 秘仏の本尊に500年前の文字 「真脇村」の住人が造立に関与

令和6年（2024）の初夏、文化財レスキューの一環として能登で被災した仏像などの応急処置に携わっている仏像修復師の松岡誠一さんから、珍しいものが見つかったと筆者に連絡が入りました。内容は、珠洲市上戸町の高照寺で仏像の応急処置にあたっていたところ、文字が書かれているのを発見したというものでした。能登町内の地名である「真脇村」と、戦国時代の享禄元年（1528）の年号が書かれているということでした。

この仏像は高照寺本尊の薬師如来坐像で、数十年前から行方不明とされていました。そのため、本尊が納められていたとされる厨子は固く閉ざされ、その前に御前立が安置されていました。地震後に仏像の応急処置に入った松岡さんが、ご住職の許可を得て厨子内部を確認したところ、バラバラになった仏像が見つかり、本尊が存在していることが分かったのです。

後日、現物を見せていただくと、確かに「真脇村住人」続いて「施主吉重」と書かれていました。施主とは、仏像造立の資金提供者であり、真脇村に住む有力者だったのかもしれません。

真脇といえば、縄文時代の人々が住んだ真脇遺跡が有名ですが、その後の中世にも史料に地名が度々登場しています。例えば、平安時代後期の康治3年（1143）10月4日付の源季兼寄進状には「珠珠正院真脇村」、鎌倉時代の承久3年（1221）に作成された能登国四郡公田田数目録案に「真脇村」、南北朝時代～戦国時代にかけて書写された四坪薬師寺大般若波羅蜜多

経の巻三二六に「珠々郡真脇林地蔵堂」、戦国時代の永正15年（1518）の為広能州下向日記に「間脇」または「真脇」と見えます。真脇には、海では漁業に従事しつつ、内陸に向かって広がる土地を開墾して農業を営む人々と、それを束ねる有力者たちがいたのでしょう。

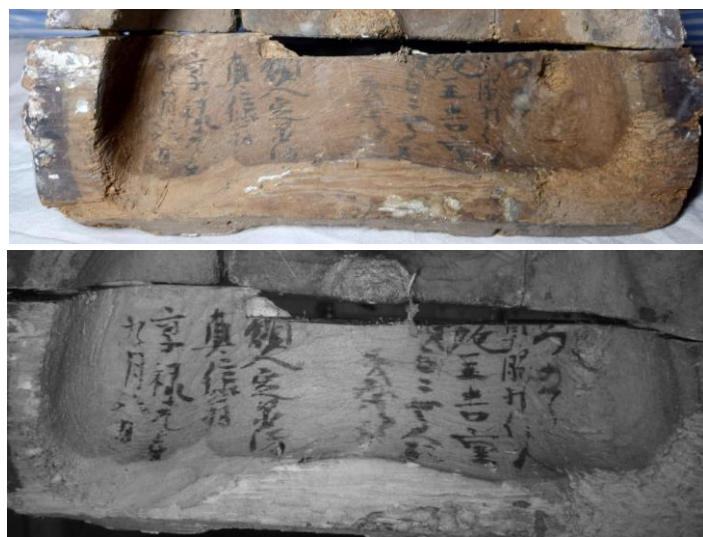
県内において、中世（平安時代後期～戦国時代）の文字資料が新しく見つかることはとても珍しく、今回の発見は地域や寺院の歴史を知るためにとても重要なものです。

また、仏像を調査した石川県立歴史博物館によると、「院派仏師」と呼ばれる仏師が南北朝時代以降に作成した仏像に共通する特徴がみられ、中世における院派仏師の動向を知ることができるということです。

本像は、7月26日（土）～8月31日（日）まで県歴史博物館で開催される夏季特別展「未来へつなぐー能登半島地震とレスキュー文化財ー」で公開されています。



高照寺 薬師如来坐像



薬師如来坐像 墨書銘
下は赤外線撮影したもの（松岡誠一氏提供）